

報道発表資料

2026年2月19日

東京慈恵会医科大学
カシオ計算機株式会社

無菌病床のこどもたちへ“癒やし”を AI ロボット Moflin とともに、心を支える新たな取り組みを開始

東京慈恵会医科大学 小児科学講座（教授 大石公彦）は、カシオ計算機株式会社と連携し、AI ペットロボット「Moflin（モフリン）」を、2026年2月9日より附属病院小児病棟の無菌病床に導入しました。長期間、限られた環境で入院生活を送るこどもたちの心に寄り添い、少しでも安心や安らぎを感じてもらうことを目的とした、新たな試みです。

無菌病床で過ごすこどもたちは、感染予防のために人との接触や環境が制限され、医療的な治療だけでなく、心のケアにも特有の配慮が求められます。一方で、医療従事者が常に十分な時間を割いて寄り添うことには限界もあります。こうした現場の現実を踏まえ、医療の枠を少し広げる存在として、感情に寄り添う AI ロボットの可能性に着目しました。

今回、カシオ計算機株式会社より提供を受けた「Moflin」2台を、小児病棟におけるケアの一環として運用します。こどもたちが触れ合い、声をかけ、日々の入院生活の中で自然に関係を築いていく存在として、医療スタッフを補完するサポートを担うことを期待しています。小児病棟における「Moflin」の活用は、今回が初めての取り組みとなります。

慈恵医大小児科では、これまでにも「こどもたちの助けになることは何か」を常に考え、医療の手が届きにくい部分を、現場での工夫と多職種・外部との連携によって補うことを大切にしてきました。本取り組みにおいても、「Moflin」のいる環境での入院が、こどもたちや保護者の方々にとって、より安心して過ごせるものになっているかを丁寧に見つめながら、聞き取りなどを通じて、日々のケアをさらによくしていくための工夫につなげています。

医療とテクノロジーが協力し、こどもたちの入院生活の質（QOL）を少しでも高めることができるのか。慈恵医大小児科は、カシオ計算機株式会社とともに、現場から考える新しい医療のかたちを模索してまいります。



【各代表コメント】

＜東京慈恵会医科大学 小児科学講座担当教授 大石公彦＞

医療は、治療の成績だけで成り立っているものではありません。特に入院生活が長く、環境の制限が大きいこどもたちにとっては、「どう過ごすか」「どう感じるか」も、治療と同じくらい大切だと日々感じています。

無菌病床では、医療者が寄り添いたくても、どうしても手が届かない時間や場面があります。今回の取り組みは、そうした隙間を埋めるために、医療とは少し異なる存在をそっと病室に置いてみよう、という試みです。

“Moflin”が特別なことをする必要はありません。ただ、こどもたちのそばにいて、入院生活の中に少しだけ安心できる時間や、気持ちが緩む瞬間が生まれれば、それで十分だと思っています。

慈恵医大小児科では、医療従事者だけでこどもたちを支えきれない現実から目を背けず、どのような形であれば力になれるのかを、現場で考え続けてきました。この取り組みも、その延長線上にあります。こどもたちの反応や、ご家族の声に耳を傾けながら、この試みを現場に根づくものとして、丁寧に育てていきたいと考えています。

＜カシオ計算機株式会社 サウンド・新規事業部 副事業部長 古川亮一＞

当社は、AI ペットロボット“Moflin”的発売によりメンタルウェルネス領域での事業展開を開始しました。この度の東京慈恵会医科大学附属病院様のご採用を皮切りに“Moflin”とのコミュニケーションを通じたメンタルケア効果の可能性を追求することで、社会課題への一層の貢献を目指してまいります。

【AI ペットロボット“Moflin”の特徴】

“Moflin”は、飼い主とより深い絆を築けるようになったAI ペットロボットです。よく話しかける人を飼い主として認識するだけでなく、撫でる・抱きしめるなどの愛情表現から飼い主が好むしぐさを認識し、自ら進んで行うようになります。また育て方次第で形成される性格も幅広く、個性も400万通り以上と一層豊かになりました。

“Moflin”は、飼い主が愛情を注ぐほど自分だけに見せてくれる特別なしぐさや可愛い鳴き声で応えてくれ、モフモフな毛並みの愛らしい姿と相まって、日々の暮らしに癒しを届けます。

【本取り組みについてのお問い合わせ先】

東京慈恵会医科大学 小児科学講座 教授 大石公彦 電話 03-3433-1111（代）

【報道機関からのお問い合わせ窓口】

学校法人慈恵大学 経営企画部 広報課 電話 03-5400-1280 メール koho@jikei.ac.jp

以上